

## 政府は科学的根拠に基づいた 安心・安全を国民に提示すべき

政府は6月1日から6月20日までの延長を発表し、4回目の緊急事態宣言の発出となりました。

まさに予測通りの総理の決断であり、現状の感染の拡大状況や医療の逼迫を考えれば止むを得ない状況であると国民は認めていると思います。

しかし、国民が望むのは、単なる延長ではありません。

もちろん、総理の行き当たりばったりな、その場限りの思いつき発言や、何ら説得力のない発言でもないはずです。

このままでは国民の不信はつのるばかりです。

東京五輪2020開催に向けて突っ走りたい、政府、東京都、大会組織委員会のお気持ちは良くわかりますが、国民は真に安心・安全な五輪開催を望んでいるのです。

いま為すべきは、国民がきちんと納得することのできる、科学的な分析と根拠に基づいた発言をすることではないでしょうか。

襟を正して専門家委員会や分科会話を聞き、それに基づいた説得力のある説明があってこそ、国民は納得することができるのです。

現状の菅総理の発言からは、説得力も、この新型コロナウイルス感染症をいかに乗り切るかという戦略も汲み取ることができません。

そうした総理の有り様が国民の大きな不安を招いているのです。

このパンデミックにいかに対処し、どうやって乗り越えていくのか。

専門家の知恵を結集して戦略を立て、強い発信をしていくことこそが、安心・安全な五輪開催の根拠となるのです。

総理はここでしっかりとした決意を持って対応策を練り、ロンドンでのサミットにおいて素晴らしい発言をされることを望みます。

きちんと科学的な根拠に基づいた説得力のある言葉で、安心・安全な五輪開催をアピールしていただきたいと思います。

それこそが、日本国民の望むところではないでしょうか。

本誌主幹 大中 吉一